



酪農試験場だより

No. 23



酪農試験場公開デー

内容紹介

- 1 第4回酪試公開デーの御案内
- 2 合理化は飼料給与診断から
- 3 牧草地の雑草防除

酪農の生産性向上には

— よい牛・よいえさ・よい給与 —



第4回酪試公開デーの御案内

酪農試験場では、酪農経営の安定を図るため、バイオテクノロジーを活用した牛受精卵移植技術など最新技術の開発やこれらの技術を応用した各種事業を行なっています。今回、その成果を広く県民のみなさまにご覧いただき、酪農に対する理解と認識を深めていただくため、第4回酪農試験場公開デーを下記のとおり開催します。おさそい合せの上、是非御来場ください。

記

日時 10月29日(木曜日) 午前10時から午後3時まで
場所 栃木県酪農試験場
催し物

- ▶ 酪農情勢の解説
最近の酪農情勢をやさしく説明します。
- ▶ バイオテクノロジーの成果展示
受精卵移植技術の研修施設や剖卵など最新技術を展示します。
- ▶ 酪農相談
酪農経営技術の相談に専門職員が答えます。
- ▶ 酪農技術講演会(11時開演)
農林水産省草地試験場高野信雄場長が「革新技術導入による酪農経営体質の改善」について講演します。
- ▶ 第2回栃木県サイレージ共進会(12時開始)
酪農家が出品したサイレージの品質鑑定を行い優れたものを展示・表彰します。
- ▶ 牛乳料理の展示・試食
牛乳料理コンクール入選作を展示
試食していただきます。
- ▶ その他、輸入牛展示やパソコンの突演など、いろいろな催し物がみなさんをお待ちしています。



- JRバス塩原行 試験場前下車徒歩10分
- 東北自動車道 那須野塩原ICより2分

講演会は11時から、共進会表彰式は12時に開始します。



合理化は飼料給与診断から

あなたの飼料設計に問題はありませんか？
 現在給与されているエサの内容を診断してみると、
 意外と不足していたり多過ぎたりしています。

特に、乳量が30kgを越えると、栄養不足となるケースが約半数を占めており、定期的に飼料をチェックする必要があります。

酪農試験場では、飼料給与診断を通して飼料設計のお手依いをしてまいりましたが、好評をいただいております給与診断を、公開デーの会場で実演いたします。コンピュータを使用したのマンツーマンによる診断、また、実際にコンピュータを操作していただき、一緒に飼料給与の改善について考えたいと思っております。

飼料設計についてのご相談も受け付けておりますのでお気軽にお立ち寄り下さい。

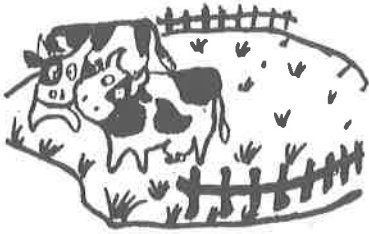
なお、ご希望の方は、下の欄に牛の状態、飼料の量などをご記入の上、当日会場までご持参下さいばその場で診断いたします。

記入例 ▶

| 牛の条件と飼料給与量 | | | | 自家配の内容 | | |
|------------|------------|------|------|--------|-----|----|
| 牛 No | 3 | 11 | 15 | 配合材料名 | 配合量 | |
| 体 重 (kg) | 591 | 640 | 625 | 大麦 | 20 | |
| 乳 量 (kg) | 19.2 | 26.6 | 35.7 | コーンシロ | 20 | |
| 乳 脂 率 (%) | 3.7 | 3.5 | 3.4 | 大豆粕 | 5 | |
| 飼料給与量 | 1977アンブレージ | 12 | 12 | 12 | 綿 実 | 10 |
| | ヘキユーブ | 3 | 3 | 3 | | |
| | ビートパルプ | 3 | 3 | 3 | | |
| | 自家配 | 8 | 10 | 13 | | |
| | オニオン | 0.1 | 0.1 | 0.1 | | |

| 牛の条件と飼料給与量 | | | | 自家配の内容 | |
|------------|--|--|--|--------|-----|
| 牛 No | | | | 配合材料名 | 配合量 |
| 体 重 (kg) | | | | | |
| 乳 量 (kg) | | | | | |
| 乳 脂 率 (%) | | | | | |
| 飼料給与量 | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |

牧草地の雑草防除



牧草地に発生するナズナ、ハコベ、エゾノギシギシ等の雑草は牧草の生育を阻害し、牧草生産量や品質を低下させます。

ここでは、これら雑草について、薬剤を用いた防除法と、牧草地への雑草侵入の防止法について述べてみます。

1 薬剤を用いた防除法

ナズナ、エゾノギシギシ(実生)の防除法としては、MCPソーダ塩を10アール当り300ccを70~100ℓの水にうすめて散布します。散布の時期は牧草播種後40~45日の11月上旬から中旬となります。

又、ナズナ、エゾノギシギシのほか、ハコベの発生する牧草地ではMCPソーダ塩では防除することができません。したがって図のようにグラスジンMが大変効果があります。散布量は10アール当り750gを水70~100ℓにうすめて播種後40日から45日の間に散布します。

2 牧草地への雑草侵入の防止法

雑草侵入を防止するためには、その侵入経路をしゃ断することが大切であり、次の点に注意する必要があります。

- (1) 前作の雑草防除を十分に行う。
- (2) 牧草の播種は秋の適期に行う。
- (3) 純度の高い種子を使用し、無保証種子は使用しない。
- (4) 牧草密度を保つため、適度な刈取り、放牧および施肥を行う。

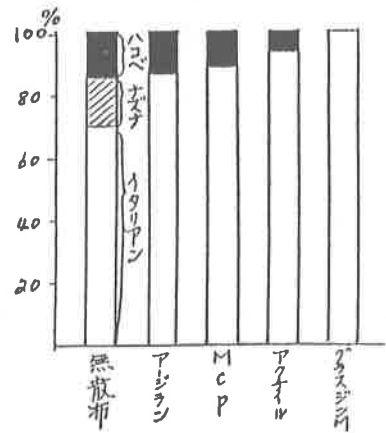


図 除草剤の効果

酪農試験場だよりNo.23

昭和62年10月5日

栃木県酪農試験場

〒329-27 西那須野町本松 298

電話02873-6-0230